

事業概要・市場環境

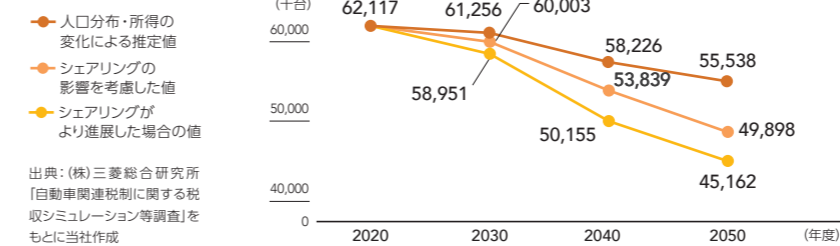
事業	主な用途	販売先	事業の特徴
自動車電池事業 (国内)	自動車 始動用 内燃機関車(ICE) / アイドリングストップ(ISS)車 補機用 ハイブリッド車(HEV) / プラグインハイブリッド車(PHEV) / 電気自動車(EV)	新車向け 日系自動車メーカー 補修向け 代理店(電装店など) / カー用品量販店 / カーディーラー / 石油元売会社など	<ul style="list-style-type: none"> ● 補修向けで継続的な収益を獲得できる ● ISS車用鉛蓄電池は利益率が高い ● 鉛価格の変動が収益に影響する ● 補修向けは冬季が需要期 ● 新車向け・補修向けの数量割合はおおよそ1:1(年度により異なる)
	オートバイ 始動用	新車向け 日系オートバイメーカー 補修向け 代理店など	
自動車電池事業 (海外)	自動車 始動用 ICE / ISS車 補機用 HEV / PHEV / EV	新車向け 日系自動車メーカーなど 補修向け 代理店など(国により異なる)	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉛価格の変動が収益に影響する ● 地産地消が基本で、為替の利益影響は軽微 ● 産業用鉛蓄電池の業績も含まれる(欧州のバックアップ用が多くを占めている) ● 自動車用・オートバイ用・産業用の売上高の割合はおおよそ6:2:2(年度により異なる) ● 東南アジアは当社シェア・収益性が高い ● 欧州・豪州は補修向けが多くを占める
	オートバイ 始動用	新車向け 日系オートバイメーカー 補修向け 代理店など	
産業用電池電源事業	非常時のバックアップ 非常用分野	鉄道 / 電力 / 官公庁 / 通信キャリア / 工場 / ビル / データセンターなど (代理店や電気工事会社、電機・通信機器メーカーなどを経由する場合もある)	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計～製造～施工～保守・メンテナンスをワンストップで行うため、利益率が高い ● 年度末に利益率の高い官公庁向けの案件が集中する
	電力貯蔵システム(ESS) 常用分野	送配電事業者 / EPC*事業者 / 工場 / 事業所など	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業拡大が期待できる
	フォークリフト 駆動用	フォークリフトメーカー / メーカー代理店など	<ul style="list-style-type: none"> ● 補修向けで継続的な収益を獲得できる
車載用リチウムイオン電池事業	自動車 駆動用 HEV / PHEV / バッテリー EV(BEV) 始動用・補機用(12Vリチウム) HEV / PHEV / BEV / ICE	日系自動車メーカーなど	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品寿命が長いいため、原則新車向けのみ ● 研究開発費用がセグメントに含まれる ● ESS用リチウムイオン電池の製造も含まれる ● 事業拡大が期待できる
特殊電池およびその他事業	潜水艦 有人潜水調査船 航空機 ロケット 人工衛星 その他特殊用途	日本政府 / 電機機器メーカー / 航空機メーカー / エアライン / 特殊法人など	<ul style="list-style-type: none"> ● 潜水艦用リチウムイオン電池は進行基準で計上しており安定した売上・利益を獲得できる ● 全社費用がセグメントに含まれる

バッテリーの用途 始動用 エンジンの始動に使用 補機用 電動車のシステムの起動や電装品のバックアップに使用 駆動用 モーターの駆動に使用
 非常用分野 データセンターや通信基地局向けなどにおいて、非常時のバックアップに使用 常用分野 再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントなどにおいて、常時の充放電に使用

* 設計(Engineering)、調達(Procurement)、建設(Construction)を一括したプロジェクトとして工事を請負う契約方式。

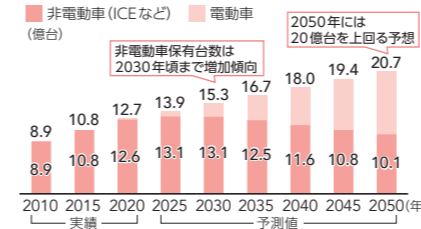
市場環境と当社の対応

国内保有台数予測

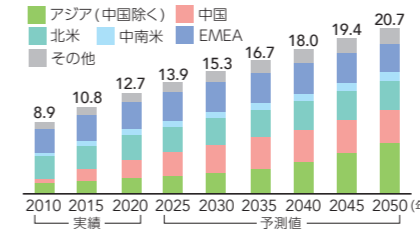


日本国内の保有台数が販売数量に影響します。長期的には、人口減少に伴い、日本国内の保有台数、新車販売台数は徐々に減少する見込みです。そのため当社では、新車向け・補修向けともに適正販売価格の構築や高付加価値製品の販売強化によってさらに収益力を強化していく考えです。

グローバルでの自動車の保有台数予想の推移

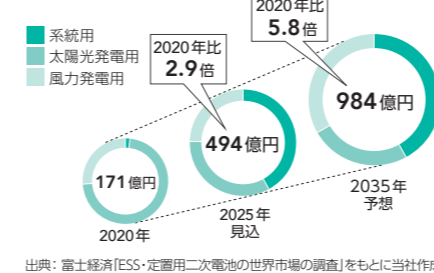


地域別自動車保有台数推移

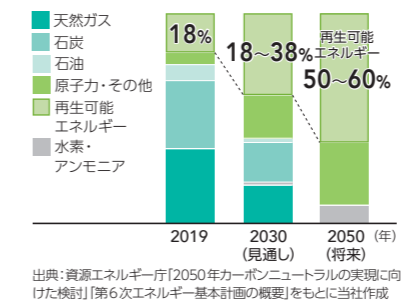


先進国では電動化が進みますが、それ以外の地域においては内燃機関車(ICE)が残り、ICEの保有台数は大幅には減少しないと想定しています。したがって始動用や補機用の鉛蓄電池の需要は2035年でも大きくは減少しないと想定しています。また、当社の主戦場であるアセアン、豪州における鉛蓄電池需要は安定的に推移すると想定しています。そのため当社では、引き続き需要の見込めるアセアン・豪州・欧州にリソースを集中し、さらなる収益力の拡大を目指します。

系統・再生併設用蓄電システム向け二次電池の国内市場

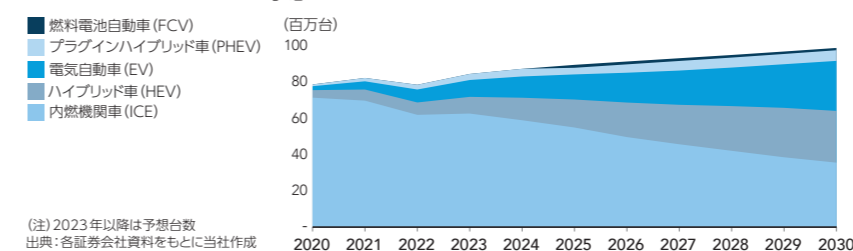


国内の電源構成の推移予想



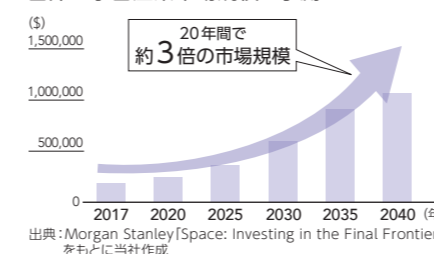
国内では再生可能エネルギー関連の補助金制度が多数発表されており、2050年には日本の電源構成における再生可能エネルギー比率は過半を占めると想定されています。一方、再生可能エネルギーは天候や時間帯によって発電量が大きく変動することから、電力系統に悪影響を及ぼす可能性があります。その出力変動を緩和する役割を果たすキーデバイスとして蓄電池の需要が高まっています。当社では2024年度、ESS向けの生産能力を2023年度の1.3倍に拡大し、需要に対応しています。

グローバルパワートレイン予想

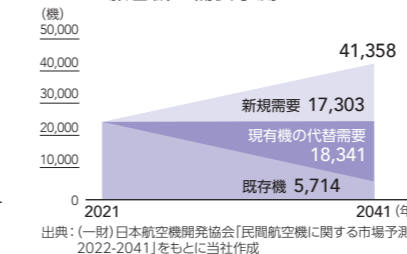


世界年間販売9,000万台を超える自動車への環境規制が、世界各国で強化されており、HEVやBEVなどの電動車の割合が大幅に増加する見込みです。日本でも、2035年までに国内の新車販売をすべて電動車にするという目標を掲げています。当社では、2030年代半ばまではHEVが自動車市場の主流と見込んでおり、生産能力を拡大して需要に対応しています。2030年以降は徐々にEV・BEVが増加すると予測しており、当社では2027年度からのBEV用の量産開始に向け、研究開発と工場建設を進めています。

世界の宇宙産業市場規模と予測



ジェット旅客機の需要予測



当社は特殊電池事業において、宇宙・人工衛星用のリチウムイオン電池で高いシェアを持っています。世界の宇宙産業市場予測では、2017年以降の20年間で約3倍の市場規模が見込まれています。今後も最高水準の性能・品質を持つ製品を提供し、宇宙産業の発展に貢献します。また航空機用リチウムイオン電池の分野では、新型コロナ禍からの回復に伴い補修向けが堅調に推移しています。今後も航空機市場全体では新規需要・代替需要を含めて大幅な成長が見込めます。